

## 12.2 ハザードマップを見たら、現地を確認してほしい

大雨が続いて、災害が発生しやすい状況になると気象庁や役所などからハザードマップを確認するようにアナウンスされることがあると思います。ハザードマップは自治体が発行しているもので、一度は目にしたことがあるかもしれません。ところで、ハザードマップは、どのようなところでどんなことが発生するのかが図示されていますので、凡例や説明を丁寧に読み取って、自分の地域にどんな災害リスクがあるのか、近くにどんなことがあるのかを知って、避難するタイミング、避難ルートなどを考えてほしいと思います。

ただし、一番重要なことは災害があったら見るのではなく、日常的に眺めて様々なシミュレーションをしておくことが大事なことです。そうでないと、避難ルートや様々な危険なことが災害の時には重なってくることから、すぐには行動できないことになるからです。

例えば、土石流の危険渓流として指定されているものが地域内にある場合には、流出土砂がどの方向に、どこまで押し出してくるのか、どのタイミングで避難すべきなどを地域で考えたり、専門家の意見を聞くようにしたいものです。そして、同様に大事なことは、危険区域といわれているところの現地を専門家に案内していただいて、なぜ危険なのか、どのようなことが起きうるのか、何をコントロールポイントにすべきなのかを指導してもらうことが絶対に必要なことです。そして、雨量計を設置するとか沢の流量を測定するとか濁りを調べるなど、自分たちでやれることがあれば検討することをお勧めします。これで安心感や避難するタイミングを知ることもできると思います。

ハザードマップを見ると同時に、現場を確認することで、地域への関心も高まります。自然災害はいつ起きるのかは大変難しいのですが、これまでの経験からどんなところに何が起きるのかは大体わかります。

		どんなところでおきるのか？	どんなことがおきるのか？
土砂災害	土石流	大雨の時に、沢から土砂が流れ出す。	沢から広い範囲で土砂や水が広がって、建物などに被害
	がけ崩れ	大雨や地震で、急な斜面が崩れる。	がけ下やがけ上の家が壊れ人にも被害
	地すべり	緩やかな斜面が押し出すように移動する。昔、すべったところでの繰り返し	土砂が押し出してきて、建物を壊す。
水害	洪水・浸水	川のそばや低いところで起きる。	大量の水が押し寄せてきて、家の中に侵入、避難が難しいときもある。
	内水氾濫	下水からあふれたり、地表にしみこまないで、雨水が集中して起きる。最近、多くなってきている。	普段、水がないところに急に現れる。目の前の景色が一変する。
造成地災害	沈下・陥没	もとは湿地など軟弱なところで起きる	建物が傾いたり、排水が機能しない。
	排水系	下水などの受け入れ能力が不足していたり、流木などで閉塞すると浸水する。	家の周りが湖のようになって避難するのが危険
	切盛境界	境目で地震の揺れ方が大きく変わる。	建物が大きく壊れる。
	すべり	谷を埋めた土砂が、地震の揺れなどですべる。	建物や道路、へいや擁壁が壊れる。時に大きな陥没が発生する。